



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会
2007 / 9 / 18(火)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 6

「国体道予選を観て」

秋田国体が目前に迫ってきています。今年は4種別とも札幌選抜が北海道代表になりましたが、当委員会の亀田恵禧先生が大会を振り返って感想を寄せて下さいましたので紹介します。国体は自分のチームを指導しながら選抜チームの面倒も見なければならず指導者にとっては負担がかかる事業です。北海道予選で現在参加しているだけのチームが必要なのかと提言もされています。今後大会運営に関わって検討が待たれるところです。

国体予選は8月10日～12日の3日間にわたり美香保体育館、江別市民体育館で行われました。例年になく猛暑続き中、選手、審判はもちろんのこと大会役員は3日間にわたり準備から後片付けまで、本当にご苦労に思いました。

私もいつになく長時間ゲームを観戦しました。会場も2ヶ所ということで物理的、時間的に困難で、両会場のゲームをつまみ食いのような見方しかできませんでした。今回観戦したゲームは成年男女、少年男女4ゲームと主に少年女子のゲームです。結果はすべて札幌選抜の勝利で終わりました。

国体道予選は、各地域協会のチームが対戦して道代表を決める方式ですので構成する選手によって勝敗を予想する事が出来ます。優勝チームを考えるに当たって、一番予想の難しいのが成年男子でしたが宮田自動車を中心に市役所3、学生3を補強した層の厚さを発揮しての勝利でした。

成年女子は札幌に対抗できるチームは無かったように思います。少年男子・女子はインターハイ直後の国体予選・コンディションの維持が難しいと思いましたが選手は良く頑張ったと思います。特に男子は帰札後合宿練習を組んで大会に参加したとのこと。コート上の選手の動きにも合宿の成果が表現されていたように思います。一方女子はコンディションに配慮してか、例年のような爆発的な得点力も影をひそめ室蘭、旭川、帯広に苦戦する場面も多かったように思いました。

チーム編成の困難性についても各地区を代表するチームの編成、選手の選考、スタッフの決定、優勝すると北海道の代表となり、仕事や家庭、経費の問題等々があり、各地区協会のチーム編成に影響を与えているようにも見えてきます。

地区協会によっては4部門とも同じ考え方でやっているのかな？成年と少年を分けているのかな？男子と女子を分けているのかな？4部門ともバラバラなのかな？スタッフだけはたくさんいるけれど、どんな役割分担になっているのかな？などとコート上のプレーを見ているとおおよその事が分かるものです。

このプレーヤーをつくるのがコーチの役目です。役目を任すための手がかりをいくつか挙げてみます。

- ※ コーチとしての目を養う。特にオフェンスはプレーのバリエーションが多いのでプレーヤーにミスを実習させないような練習内容や方法を設定する。(特に若い選手には習慣を形成するため)
- ※ ミスプレーには原因が必ずあります。ミスプレー前後に原因がある事が多い。
- ※ 敵がいるから失敗する。のではなく自分で勝手にミスすることや味方同士が協力してのミスのほうが多い。レベルに合わせた練習内容や練習順序があるはずです。
- ※ ボールを持っているほうが攻撃(オフェンス)、ボールの無いほうが防御(ディフェンス)といいますが、構えや気持ちは逆である。

「そろそろ国民体育大会を考える」

戦後62年が経過しています。100年続けるかもっと続けるのか、50年前に比べ大会の数も雑用も多くなっている中で、ボランティアに頼る限られた大会役員の苦勞を思うと国体がこれからも続くのであれば、北海道チームを編成するための北海道予選の持ち方を考えてよい時期でないかとおもいます。例えば成年男女4、少年男女8などです。

北翔大学女子バスケットボール部監督
指導者育成専門委員会委員
亀田 恵禧

HBA (北海道バスケットボール協会) 指導者育成専門委員会